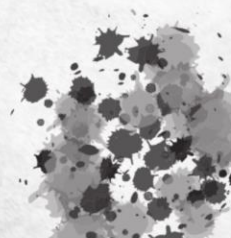




レオナルド・ダ・ヴィンチ

～ 万能の天才 ～



時代背景

14世紀から16世紀までイタリアで続いた[]時代の中でも、その頂点を極めた盛期ルネサンスにおいて活躍したのが、今回紹介する天才。その人物こそ、「**万能の天才**」と呼ばれたレオナルド・ダ・ヴィンチです。本日は、「**歴史上最高の画家であり、人類史上最も多才な人**」と呼ばれるように、芸術だけにとどまらず様々な領域に精通し、幅広い分野において深い知識をもった科学者として知られる偉人について勉強します。



偉人の生涯



Leonardo da Vinci 1452～1519 イタリア 芸術家

Keyword 「 」 「 」 「 」

西 暦	年齢	生 涯
1452	0	フィレンツェ郊外の ヴィンチ村 に生まれる
1466	14	フィレンツェで最も優れた工房の一つであった ヴェロッキオ の工房へ入門し、芸術家としての道を歩み始める
1472	20	工房の主催者であるヴェロッキオと「 」を合作
1476	24	ダ・ヴィンチと他3名の青年が、同性愛の容疑を掛けられるも証拠不十分で放免される
1480	28	この頃のダ・ヴィンチは、残した手記からスランプに陥ったのではとされている。「 荒野の聖ヒエロニムス 」を描き始めるが、描き始めの時点で制作を放棄している
1483	31	「 岩窟の聖母 」の制作依頼を受ける。作品は完成させたものの、構成や報酬について依頼主側と裁判になる…裁判の決着は25年後の1508年
1489	37	解剖した人体のデッサンを描き始める。20年間で約30体の死体を解剖し、デッサンの数は750枚にも上った
1490	38	1490年1月13日に開催された「 天国の祭典 」という舞台劇の舞台総監督を務めた
1495	43	「 」の制作に取り掛かる
1499	47	第二次イタリア戦争が勃発し、避難先のヴェネツィアで軍事技術者として雇われる
1503	51	「 」の制作を開始
1516	64	フランス王に招かれ、移住し、この世を去るまでの3年間でフランスで過ごす
1519	67	フランスで死去 葬儀は彼の遺言に従い60名の貧者が参加し、遺産も親しい間柄だった人たちに分配された

偉人の功績・思想

★万能の天才 「美術は科学や自然と密接に結びついている」

画家、建築家、発明家、その他にも生理学に天文学、地質学、物理学、力学、土木工学などに精通

★ダ・ヴィンチの少年時代

「私生児」とは、法律上の婚姻関係がない男女の間に生まれた子どもを指す

ダ・ヴィンチの父は弁護士で、母親は農家の娘であった。二人は正式に結婚しておらず、彼は“私生児”として育てられた。そうした中で、5歳になる頃からは父セル・ピエロが所有するヴィンチ村の邸宅で暮らすようになり、この暮らしの中で、自然に対して強い興味を持っていた叔父から大きな影響を受ける。ただ、“私生児”ということから、簡単な読み書き、計算以外は正式な教育を受けることがなく、勉学は苦手であったという。

14歳にしてフィレンツェで最も優れた工房の一つであったヴェロッキオの工房へ入門



絵は小さい時からよく描いていたため、14歳で芸術家ヴェロッキオに弟子入りし、芸術の道へと進んでいくのだが…

天才エピソード

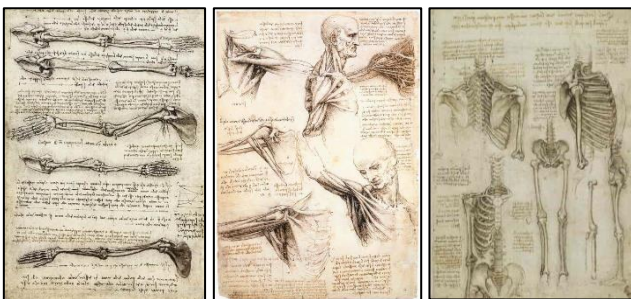
師匠との合作[]を描いたのだが、レオナルドの圧倒的な技術の高さを目の当たりにしたヴェロッキオは筆を置いたのだとか…？

★ダ・ヴィンチの絵画以外の功績

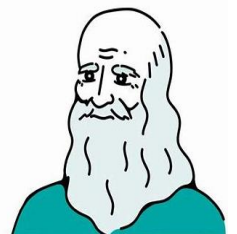
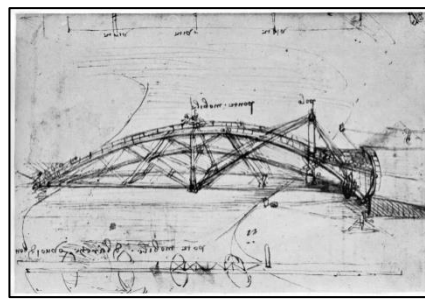
彼を語るうえで欠かせないのは、興味関心が美術の領域をはるかに超えていたということ。

解剖学や機械工学、物理学や兵器製造術なども学び、自転車やヘリコプター、潜水艦に戦車の設計もしていたという。さらに凄いのが、発明のデザインが非常に正確で、実用化可能なものが多かった点であり、実際に実用化されたのが数百年後であったことから「まだ皆が眠っているときに、一足先に目覚めてしまった人」とも表現されることがある

[解剖学]



[ダ・ヴィンチの橋]



常人には理解しがたい天才エピソード ～本人が書いたとされる 5000 ページに上る手稿～

- メモは鏡文字で書かれ、まるで暗号化のよう（幼少期に向かいに座った人のマネをして書いたから…?）
- 「最後の晩餐」を描く際、24時間以上食事をとらずに壁画に向かって絵筆を動かしていたこともあれば、3日～4日、絵を眺めているだけの時もあったそう

偉人の功績

★ダ・ヴィンチの絵画

描いた作品は数千にも及ぶとされているダ・ヴィンチの絵画であるが、**現存している作品は16作品**だとか…。今回はそのうちの7作品を取り上げ、少しでも彼について知ってもらいたい時間になりたい

ダ・ヴィンチ作とされる絵画一覧

- ① [受胎告知] ② [カーネーションの聖母] ③ [ブノワの聖母子] ④ [ジナブラ・デ・ベンチの肖像]
⑤ [荒野の聖ヒエロニムス] ⑥ [東方三博士の礼拝] ⑦ [岩窟の聖母] ⑧ [白貂を抱く貴婦人]
⑨ [ラ・ベル・フェロニール] ⑩ [最後の晚餐] ⑪ [ラ・ジョコンダ (モナ・リザ)]
⑫ [聖アンナと聖母子] ⑬ [洗礼者ヨハネ] ⑭ [サルバトール・ムンディ]

①[受胎告知](1472-1475)



ダ・ヴィンチの実質的なデビュー作品

大天使〔 〕が処女マリアのもとを訪れ、
〔 〕を授かったことを告知する場面を描く

ここがすごい！

遠近法の正確さ、[]

→当時は非現実的な金色や虹色で描くのが一般的

②[カーネーションの聖母] ③[ブローアの聖母]



どちらもイエスを抱く聖母の絵画なのだが…

ここがすごい！

「ブローアの聖母」ではレオナルドによる新たなチャレンジが！

⑤[荒野の聖ヒエロニムス]



聖人が岩場にひざまずき、十字架を見つめて胸に手を当てている
身体を石で打ち付けている場面なのだが、なぜそんなことを？

理由...

ここがすごい！

首から肩にかけての筋肉の描写が正確すぎる！！よって、彼の作品だと断定

⑦[岩窟の聖母]プレディス兄弟との合作



教会に依頼されて描いたにもかかわらず、普段なら描くはずの”あれ”がない…

ここがすごい！

アトリビュート…紙や人物の象徴的な持ち物（天使であれば〇〇…）

⇒ _____ ため、イエスやヨハネの区別が…（画期的）



教会に大批判されて裁判に…20年後に同じ構図でプレディスが書き直して納める

⑩[最後の晚餐]



絵画史上、最も複製されたといわれている作品

ここがすごい！

使徒 12 人の緊迫した様子が見受けられる

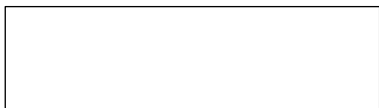
1 列でありながら、中央のイエスが浮いているのが芸術的

「この中に私を裏切るものがある」

⑪[モナ・リザ] (ラ・ジョコンダ)

ダ・ヴィンチといえば！

ここがすごい！ 彼曰く…物には明確な〇〇がない



ひたすら“_____”でなげませた

フランス：ルーブル美術館所蔵

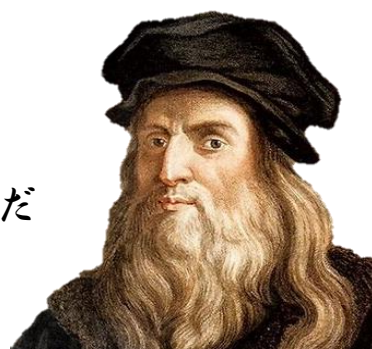


「並の人間は、よく見ずにただ眺め、耳を澄まさずに聞き、触っても感じず、
味わうことなく食べ、意識することなく動き、匂いに気づかずに空気を吸い、考えずに話す。」

自分が描いた人や動物がナイフで切られたとしたら、その時にちゃんと血が流れることが、絵を通してイメージできる。彼は、そんな臨場感を常に探求していました。そのためには人体構造や生物学の知識が必要であり、人や動物の解剖など自分が実際に観て触れる体験も大切にしていました。そんな深い好奇心が彼の表現を豊かにし、時が経っても人々を魅了するモナ・リザの微笑みを生み出したのでしょう。

芸術に決して完成ということはない。

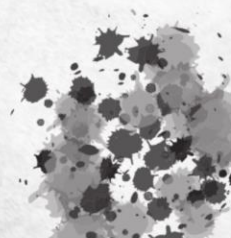
途中で見切りをつけたものがあるだけだ





レオナルド・ダ・ヴィンチ

～ 万能の天才 ～



時代背景

14世紀から16世紀までイタリアで続いた「ルネサンス」時代の中でも、その頂点を極めた盛期ルネサンスにおいて活躍したのが、今回紹介する天才。その人物こそ、「**万能の天才**」と呼ばれたレオナルド・ダ・ヴィンチです。本日は、「**歴史上最高の画家であり、人類史上最も多才な人**」と呼ばれるように、芸術だけにとどまらず様々な領域に精通し、幅広い分野において深い知識をもった科学者として知られる偉人について勉強します。



偉人の生涯



Leonardo da Vinci 1452～1519 イタリア 芸術家

Keyword 「モナ・リザ」 「最後の晚餐」

西 暦	年齢	生 涯
1452	0	フィレンツェ郊外の ヴィンチ村 に生まれる
1466	14	フィレンツェで最も優れた工房の一つであった ヴェロッキオ の工房へ入門し、芸術家としての道を歩み始める
1472	20	工房の主催者であるヴェロッキオと「 <u>キリストの洗礼</u> 」を合作
1476	24	ダ・ヴィンチと他3名の青年が、同性愛の容疑を掛けられるも証拠不十分で放免される
1480	28	この頃のダ・ヴィンチは、残した手記からスランプに陥ったのではとされている。「 荒野の聖ヒエロニムス 」を描き始めるが、描き始めの時点で制作を放棄している
1483	31	「 岩窟の聖母 」の制作依頼を受ける。作品は完成させたものの、構成や報酬について依頼主側と裁判になる…裁判の決着は25年後の1508年
1489	37	解剖した人体のデッサンを描き始める。20年間で約30体の死体を解剖し、デッサンの数は750枚にも上った
1490	38	1490年1月13日に開催された「天国の祭典」という舞台劇の舞台総監督を務めた
1495	43	「 <u>最後の晚餐</u> 」の制作に取り掛かる
1499	47	第二次イタリア戦争が勃発し、避難先のヴェネツィアで軍事技術者として雇われる
1503	51	「 <u>モナ・リザ</u> 」の制作を開始
1516	64	フランス王に招かれ、移住し、この世を去るまでの3年間でフランスで過ごす
1519	67	フランスで死去 葬儀は彼の遺言に従い60名の貧者が参加し、遺産も親しい間柄だった人たちに分配された

偉人の功績・思想

★万能の天才 「美術は科学や自然と密接に結びついている」

画家、建築家、発明家、その他にも生理学に天文学、地質学、物理学、力学、土木工学などに精通

★ダ・ヴィンチの少年時代

「私生児」とは、法律上の婚姻関係がない男女の間に生まれた子どもを指す

ダ・ヴィンチの父は弁護士で、母親は農家の娘であった。二人は正式に結婚しておらず、彼は“私生児”として育てられた。そうした中で、5歳になる頃からは父セル・ピエロが所有するヴィンチ村の邸宅で暮らすようになり、この暮らしの中で、自然に対して強い興味を持っていた叔父から大きな影響を受ける。ただ、“私生児”ということから、簡単な読み書き、計算以外は正式な教育を受けることがなく、勉学は苦手であったという。

14歳にしてフィレンツェで最も優れた工房の一つであったヴェロッキオの工房へ入門



絵は小さい時からよく描いていたため、14歳で芸術家ヴェロッキオに弟子入りし、芸術の道へと進んでいくのだが…

天才エピソード

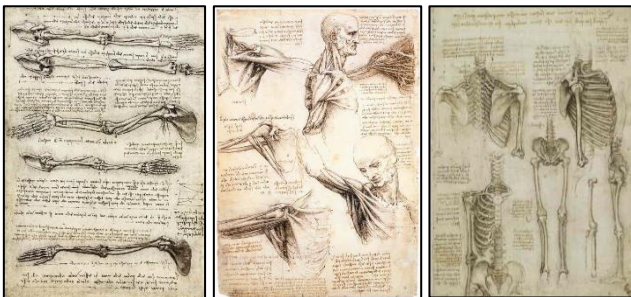
師匠との合作 [キリストの洗礼] を描いたのだが、レオナルドの圧倒的な技術の高さを目の当たりにしたヴェロッキオは筆を置いたのだとか…?

★ダ・ヴィンチの絵画以外の功績

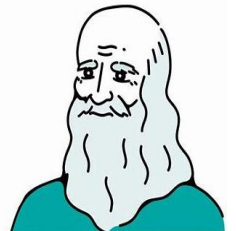
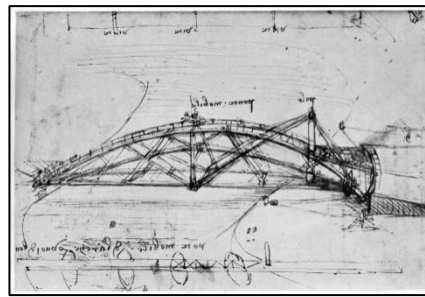
彼を語るうえで欠かせないのは、興味関心が美術の領域をはるかに超えていたということ。

解剖学や機械工学、物理学や兵器製造術なども学び、自転車やヘリコプター、潜水艦に戦車の設計もしていたという。さらに凄いのが、発明のデザインが非常に正確で、実用化可能なものが多かった点であり、実際に実用化されたのが数百年後であったことから「まだ皆が眠っているときに、一足先に目覚めてしまった人」とも表現されることがある

[解剖学]



[ダ・ヴィンチの橋]



常人には理解しがたい天才エピソード ～本人が書いたとされる 5000 ページに上る手稿～

- メモは鏡文字で書かれ、まるで暗号化のよう（幼少期に向かいに座った人のマネをして書いたから…?）
- 「最後の晩餐」を描く際、24時間以上食事をとらずに壁画に向かって絵筆を動かしていたこともあれば、3日～4日、絵を眺めているだけの時もあったそう

偉人の功績

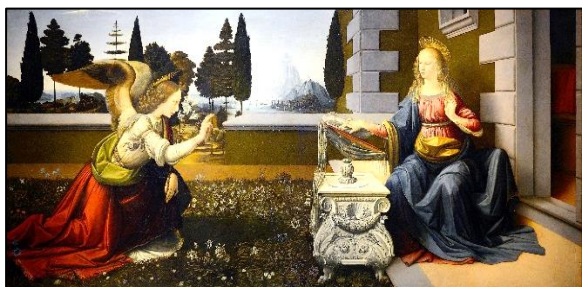
★ダ・ヴィンチの絵画

描いた作品は数千にも及ぶとされているダ・ヴィンチの絵画であるが、現存している作品は16作品だとか…。今回はそのうちの7作品を取り上げ、少しでも彼について知ってもらいたい

ダ・ヴィンチ作とされる絵画一覧

- ① [受胎告知] ② [カーネーションの聖母] ③ [ブノワの聖母子] ④ [ジナブラ・デ・ベンチの肖像]
- ⑤ [荒野の聖ヒエロニムス] ⑥ [東方三博士の礼拝] ⑦ [岩窟の聖母] ⑧ [白貂を抱く貴婦人]
- ⑨ [ラ・ベル・フェロニール] ⑩ [最後の晚餐] ⑪ [ラ・ジョコンダ (モナ・リザ)]
- ⑫ [聖アンナと聖母子] ⑬ [洗礼者ヨハネ] ⑭ [サルバトール・ムンディ]

①[受胎告知](1472-1475)



ダ・ヴィンチの実質的なデビュー作品

大天使「ガブリエル」が処女マリアのもとを訪れ、「イエス」を授かったことを告知する場面を描く

ここがすごい！

遠近法の正確さ、「ガブリエルの翼が鳥すぎる …」

→当時は非現実的な金色や虹色で描くのが一般的

②[カーネーションの聖母] ③[プロアの聖母]



どちらもイエスを抱く聖母の絵画なのだが…

ここがすごい！

[プロアの聖母] ではレオナルドによる新たなチャレンジが！

笑っている！本当のお母さんのような印象

⑤[荒野の聖ヒエロニムス]



聖人が岩場にひざまずき、十字架を見つめて胸に手を当てている
身体を石で打ち付けている場面なのだが、なぜそんなことを？

理由… 性的な欲望を追ひ払うため

ここがすごい！

首から肩にかけての筋肉の描写が正確すぎる！！よって、彼の作品だと断定

⑦[岩窟の聖母]プレデイス兄弟との合作



教会に依頼されて描いたにもかかわらず、普段なら描くはずの”あれ”がない…

ここがすごい！

アトリビュート…紙や人物の象徴的な持ち物（天使であれば〇〇…）

⇒ 羽が布で隠れている ため、イエスやヨハネの区別が…（画期的）



教会に大批判されて裁判に…20年後に同じ構図でプレデイスが書き直して納める

⑩[最後の晚餐]



絵画史上、最も複製されたといわれている作品

ここがすごい！

使徒 12 人の緊迫した様子が見受けられる

1 列でありながら、中央のイエスが浮いているのが芸術的

「この中に私を裏切るものがある」

⑪[モナ・リザ] (ラ・ジョコンダ)

ダ・ヴィンチといえば！

ここがすごい！ 彼曰く…物には明確な〇〇がない

輪郭を描いていない



ひたすら“指”でなびませた

フランス：ルーブル美術館所蔵



「並の人間は、よく見ずにただ眺め、耳を澄まさずに聞き、触っても感じず、
味わうことなく食べ、意識することなく動き、匂いに気づかずに空気を吸い、考えずに話す。」

自分が描いた人や動物がナイフで切られたとしたら、その時にちゃんと血が流れることが、絵を通してイメージできる。彼は、そんな臨場感を常に探求していました。そのためには人体構造や生物学の知識が必要であり、人や動物の解剖など自分が実際に観て触れる体験も大切にしていました。そんな深い好奇心が彼の表現を豊かにし、時が経っても人々を魅了するモナ・リザの微笑みを生み出したのでしょう。

芸術に決して完成ということはない。

途中で見切りをつけたものがあるだけだ

